

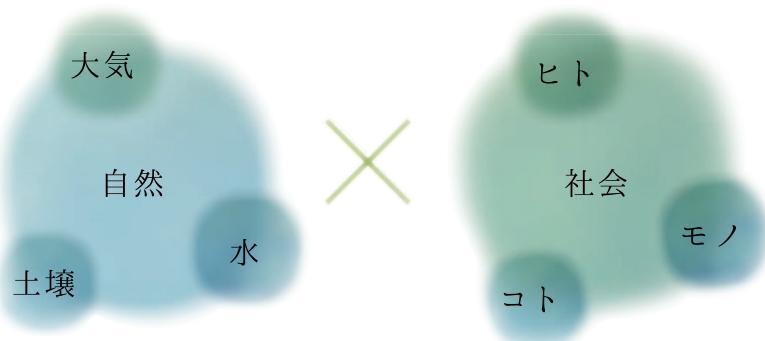


# F'S ECO REPORT 2016



# 生活者とお客様の 「幸せ」に貢献する 環境先進企業をめざします。

フクシマは自然の恵みを伝える企業として、  
食材を育む自然（大気・水・土壌）と社会（コト・モノ・ヒト）に資する  
持続可能な開発を通じて環境に貢献します。



## Contents

コンセプト	1
トップメッセージ・環境方針	2
特集「自然と調和するコト」	3
事業概要	5
環境報告 1「爽やかな大気」	6
環境報告 2「清らかな水」	7
環境報告 3「安全な土壌」	7
環境活動を支える仕組み	8
環境マネジメント	9

# 環境と食の未来を支える

## 「高い省エネ目標へ挑戦」

2015年4月に「フロン排出抑制法」が施行され、「廃棄時の回収・破壊」に関わる規制が、「省フロンの使用」と、「フロン使用中の管理」へと拡大されました。当社のお客様にも管理義務が発生することから、お客様に対して、よりよい管理体制が構築できるよう様々な提案を進めております。省エネ製品の開発によるお客様のエネルギー消費低減とあわせて尽力してまいります。

フロン排出抑制法ではフロン類使用製品の低GWP（温暖化係数）化やノンフロン化の取り組みが求められています。当社では、温暖化係数の低い代替冷媒を用いた基礎研究を行っており、2015年2月にはCO<sub>2</sub>を代替冷媒とした冷凍システムを開発・納入しました。今後も、より省エネかつ地球環境にやさしい次世代冷媒への研究を進めてまいります。

福島工業は、関西電力・九州電力とBEMSアグリゲーターとして契約しております。電力需給が逼迫した際には、当社のBemsiyouのインフラを活用してお客様の店舗の冷凍冷蔵設備を遠隔で省エネ制御することで負荷

福島工業株式会社  
代表取締役社長 福島 裕

調整に貢献します。また、「エネマネ事業者」として、お客様の設備に対して「エネルギーマネジメントシステム」を導入し、エネルギー管理支援サービスを通じてお客様の省エネルギー事業を支援いたします。

## 「温度コントロール技術を集積」

2013年に、『ESCO事業を組み合わせたエネルギー管理システム「Bemsiyou」による環境負荷システムの構築』が省エネ大賞経済産業大臣賞（ビジネスモデル分野を受賞しました。また、別置き型冷蔵冷凍ショーケースやブルワリー冷凍冷蔵庫などの冷凍冷蔵機器の運転状況を解析し「フロン冷媒の漏れを検知するシステム」が、オゾン層保護・地球温暖化防止大賞優秀賞を受賞しました。

福島工業では磨き抜かれた技術を集積し社会的価値の増大を目指します。お客様の期待をさらに越えるため、生活者の環境と食の未来を支えられるよう、付加価値を追求し今後も様々な環境活動に邁進してまいります。

## POLICY

環境にやさしい製品・サービスを提供する「エコ・パートナー」をめざします。

## 基本理念

福島工業株式会社は、地球環境にやさしい事業活動を重要な経営課題の一つとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを継続的かつ積極的に推進します。幸せ創造活動の一環として「Eco-otech」を軸に、環境にやさしい製品・システム・サービスを提供する「エコ・パートナー」を目指します。

## 基本方針

- 業務用冷凍冷蔵庫、ショーケース・プレハブ庫・その他の関連機器及びシステムの製造・販売・工事・メンテナンス・店舗システムを提供するにあたり、お客様の環境負荷を低減する製品及びサービスの提供・提案を行います。
- 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、汚染の予防につとめるとともに、環境管理システムの継続的改善を図ります。
- 法規制、条例、当社が所属する業界団体・地域社会の取り決めや自主的に受け入れを決めたその他の要求事項を遵守し、環境管理に努めます。
- 事業活動によって生じる環境影響のうち、下記に示す項目を重点テーマとして改善に取り組みます。
  - 環境に配慮した製品・システムの積極的な販売
  - フロンが環境に与える影響の低減
  - 廃棄物の排出量削減
  - エネルギー使用量削減
  - 素材・消耗材の使用量削減
- 環境目的・目標の設定を行い、実行計画を作成し、実施します。またこれらを定期的に見直し、必要に応じて改訂を行います。
- 環境管理システムの文書化を行い、この内容にそって運用し環境管理システムの維持管理を行います。
- 全従業員に環境方針の内容を周知徹底させるとともに、教育によって環境保護の重要性への意識向上に努めます。また、グループ会社の納入・仕入・協力会社等にも当社の環境方針及び取り組みの周知を図り、理解と協力を求めます。

2014年6月1日 代表取締役社長 福島 裕

この環境方針は、ホームページに掲載し広く一般に開示します。また、要請のあった全ての人に、印刷物を渡して開示します。



## 【省エネ・省力化を実現】

自動洗浄機能付プラスチックラー/ショックフリーザーと  
大型プラスチックラー/ショックフリーザーの開発・販売を開始

更なる省エネに寄与する製品の開発とモデルチェンジ

プラスチックラー/ショックフリーザーとは、アツアツな状態の調理品の粗熱取り・急速冷却・急速凍結を行う製品です。食品工場や学校給食センター、セントラルキッチンなどに納入されています。2015年度当社では自動洗浄機能付プラスチックラーの開発と、インバータ冷凍機を組み合わせた大型プラスチックラーのモデルチェンジを行い、更なる省エネを目指しました。

### お客様の省力化を実現した自動洗浄機能付プラスチックラーの開発

従来のプラスチックラーでは庫内の清掃を手作業で行っており、毎日のお手入れに時間や手間がかかるため、課題となっていました。今回、当社は新たな取り組みとして、清掃作業を自動で行う自動洗浄機能付プラスチックラーを開発しました。これは業界初の試み(※)です。庫内に専用洗浄剤を投入してボタンを押すだけで、庫内を丸洗いし、すすぎ乾燥までを自動で行うことが可能となりました。従来のプラスチックラー清掃にかかる時間と比較すると約1/6の時間で清掃作業が完了し、大幅な省力化を実現しました。また洗浄は水を循環させて行うため、節水につながります。また、DCファンモータを採用し冷却性能や省エネ性を向上させています。

※2015年11月現在 当社調べ

### 省エネに大きく貢献する大型プラスチックラーのモデルチェンジ

インバータ冷凍機を採用し最適な運転を行い、より大きな省エネを実現しました。また、自動洗浄機能付プラスチックと同様に高効率でモーターからの発熱量が少ない省エネタイプの回転数制御方式DCファンモータを採用し、冷却スピードを大幅に向上させています。さらに、冷媒をR404AからR410Aの地球温暖化係数の低い冷媒に変更することで、より地球環境に優しい製品となりました。

### ■新たに加わったプラスチックラー/ショックフリーザー

自動洗浄機能付プラスチックラー/ショックフリーザー



お客様の作業効率と食材の安全性を高める自動洗浄機能付プラスチックラー/ショックフリーザー12型

プラスチックラー/ショックフリーザーの特徴を動画でご覧ください



大型プラスチックラー/ショックフリーザー



セントラルキッチンや病院など多くの加熱調理品を扱うお客様向けのプラスチックラー/ショックフリーザー40型

#### ① 省エネ

ファンモーターの改良により従来機と比べて大幅な省エネ化を実現

#### ② 効率

加熱した食品を熱々のまま入れることができ、時短・作業効率Upを実現

#### ③ 品質

急速冷却により、加熱調理品のクオリティ/美味しさを維持

#### ④ 安全性

食中毒菌の増殖しやすい温度帯を素早く通過し食中毒予防に貢献

省エネへの挑戦は尽きることはありません。今回のモデルチェンジでは、省エネ対応だけでなくお客様の省力化にもつながる一歩先の安全安心を届けるプラスチックラー/ショックフリーザーを実現させました。自動洗浄機能付では、DCファンモーターの開発に取り組み冷却時の消費電力で約20%削減と大幅な省エネ効果を可能としました。さらに、これまでの手洗い製品と自動洗浄機能付製品と比べたコスト面(電気代・水道代・人件費等)では、自動洗浄機付製品では約4万円とお客様にとっても経済的。また、水洗いに強いファンモーターの採用により清掃時間の大幅な短縮も可能となりました。さらに安全面においても冷凍効率に優れ、食中毒の菌が増殖する温度帯を従来製品より素早く一気に通り抜けるため、さらに食の安全安心につながりつつ、美味しさの維持にも一躍担っています。大型の40型製品では、これまで以上に地球温暖化対策に貢献する冷媒R410Aに変更しました。私たちは、これからも環境のこころ、お客様のことを考え、省エネ・効率・品質・安全性の4つのテーマに対して挑戦し続けてまいります。

### 一歩先の安全安心を見つめ 新たな製品を開発



開発者の声

開発本部 岡山開発一部 開発二課 課長 岡本(右)、岸本(左)

## 事業概要

高度な温度コントロール技術をコアに、  
フードビジネスに新しい価値を創造します。

福島工業は、飲食店の厨房などで主に利用される「業務用冷凍冷蔵庫」、スーパーの売り場で生鮮食品などを陳列する「冷凍冷蔵ショーケース」を中心に、フード機器の専門メーカーとして食を支え、高度な温度コントロール技術で業界をリードしています。ハードの提供だけでなく、店舗の仕組みづくりの提案、さまざまな製品を組み合わせた厨房のトータルプロデュースなどを行います。さらに、厨房機器全体の集中管理を行う「HACCPマスターV3」や機器異常を遠隔監視するシステム「Sネット24」、ショーケース・空調などを自動制御する「アクシアエコマスター」など、ソフトでもお客様をトータルサポートする体制を確立しています。また、環境負荷低減システムとしてエネルギー管理システム「Bems-you」を構築し店舗トータルの省エネを推進しています。



## 会社概要



### 社名

福島工業株式会社  
FUKUSHIMA INDUSTRIES CORP.

### 本社

〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島3-16-11

### 設立

1951(昭和26)年12月8日

### 資本金

27億6千万円

### 従業員

連結 1,558名  
単体 1,160名(準社員除く)

### 事業内容

- 1.業務用冷凍冷蔵庫、冷凍冷蔵ショーケース、メディカル関連機器、その他冷凍機応用機器の製造・販売
- 2.店舗システム、厨房総合システムの設計・施工
- 3.その他上記に付帯する業務

# 爽やかな大気を守るため「オゾン層の保護」 「地球温暖化防止」に取り組んでいます。

## 岡山工場

生産性向上と  
電力使用量の「見える化」

1台当たり電力使用量  
2014年度比

**7.0%減**

## 岡山工場

環境負荷を軽減する  
太陽光発電設備の導入

**約2,300枚**

太陽光パネル設置

**443MWh発電**

## 滋賀(水口)工場

第2棟稼働による  
都市ガス使用量の削減

2014年度比

**46.6%減**

## 本社・各支社

エネルギー管理店舗  
376店舗  
(2010~2015年度累計)

電力逼迫時の省エネ  
コントロールによる節電の実施

**4.2MW 削減**

生産性向上と電力使用量の「見える化」をテーマに、製品1台当たりの電力使用量を2014年度比で2015年度に5%削減する目標を掲げ、電力使用量削減への取り組みを推進してまいりました。

生産性向上では、生産革新活動、小集団活動等、様々な活動を通じ、製品1台あたりの工数を削減し、エネルギーの削減に取り組んでいます。

電力使用量の見える化では、生産ライン毎の消費電力と電流値をモニタリング、各機器の稼働状況を分析しています。それにより、夜間・休日のタイマーによる設備の停止、起動時間の調整

岡山第二工場の屋上に約2,300枚の太陽光パネルを設置しました。2013年5月下旬より発電を開始し、今年度は443MWh発電しました。これは一般家庭に換算すると約80世帯分の年間電力使用量に相当します。

発電データは本社・岡山工場の2か所でリアルタイムに管理されています。

2014年12月より第2棟(新工場)が稼働を開始しました。照明は全面LEDを採用しております。

第2棟が稼働し塗装工程の稼働効率が向上したため、乾燥炉で使用する都市ガスの使用量の削減に繋がっています。その結果、都市ガスの使用量を2014年度比46.6%削減ができました。

2012年にリリースしたBems-youを用いて現在まで376店舗のエネルギーを管理しています。管理をしている店舗の中では冷蔵・冷凍設備の最適制御、インバータ冷凍機の導入、デマンド制御空調設備などの運用改善案等を実施しています。

夏季・冬季で電力逼迫が予想された計25日間、多くのお客様にご賛同頂き、省エネコントロールを実施しました。

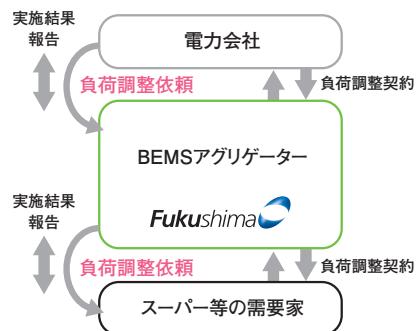
その結果、計4.2MWの電力削減に繋がりました。

等を行いました。

その結果、製品1台当たりの電力使用量を2014年度比7.0%削減ができました。



## BEMSアグリゲーターとして お客様の省エネ・節電に貢献



2015年度BEMSアグリゲーターとして  
トータルマネージングシステム(Bems-you)  
導入とその後の管理をご提案しました。

環境報告2 清らかな水

清らかな水を守るため「有害物質の削減」に取り組んでいます。

岡山工場  
 廃アルカリ・廃シンナーの削減  
 廃棄量 2012年度比 廃アルカリ 20%削減 廃シンナー 0kg

滋賀(水口)工場  
 廃シンナーの削減  
 廃シンナー 0kg

岡山工場では、塗装工程において、ボイラー設備・前処理設備及び塗装吹付けブースから排出される廃液を「廃アルカリ」とし、産業廃棄物として廃棄しています。この廃棄物を削減する為、2010年10月に廃アルカリ中和装置を導入し、ボイラー設備から出る廃アルカリを処理し、廃アルカリの削減へと繋がりました。この中和装置の管理は日常管理の中で点検しており、異常が出ると直ちに察知出来るよう監視体制を整えています。

また、同じ塗装工程から出る「廃シンナー」を業者へ委託し、再生シンナーとして再生してもらい、これを工場で再使用する様に変更しました。今までは産業廃棄物として廃棄していましたが、2010年11月より廃棄量“0”へと結果に繋がっています。今後も廃棄物ゼロへ向けて、活動を推進していきます。

滋賀工場では、塗装工程から出る「廃シンナー」を業者へ委託し、再生シンナーとして再生してもらい、これを工場で再使用する様に変更しました。

環境報告3 安全な土壌

安全な大地を守るため「廃棄物の削減」「資源の有効利用」に取り組んでいます。

本社・各支社  
 3Rへの取り組みを推進

本社・各支社  
 節電アクションプラン実施

岡山工場  
 メチクロ(ジクロロメタン)の購入量削減  
 2013年度比 54%削減

3R(リデュース・リユース・リサイクル)を合言葉に、日常の業務からこまめな取り組みを行っています。代表的な活動としては、コピー用紙の購入量削減のための裏紙利用徹底を実践。コピー機の横に裏紙BOXを設置し、

- ①昨夏と昨冬に節電アクションプランを全社で実施  
 照明の間引き、自動販売機のタイマー制御、暖房便座・エアータオルの停止など可能な限りの節電アクションプランを実施しました。
- ②クールビズ、ウォームビズの実施  
 2006年度よりクールビズ・ウォームビズを全社で導入実施し、夏場＝室温28℃以上、冬場＝室温20℃以下を空調温度設定とともに徹底しています。

2014年度より、設備の洗浄に使用している、メチクロを代替の溶剤に切替えていきました。それにより、メチクロの購入量が2013年度比54%削減となりました。さらなる購入量の削減を目指して、引き続き代替の溶剤を検討していきます。

サイズ別に分類するなどして裏紙利用の意識を高めています。また不要になった図面の再利用、電子データ活用による紙の消費量抑制なども進めています。今後も活動のさらなる強化を図り、減少をめざします。

- ③照明機器・パソコンの電力量の削減  
 昼休み・帰社後に照明をひもスイッチでこまめに消灯を行い、パソコンの画面照度をエコ設定にするなど電力消費の削減にも力を入れています。

## 環境活動を支える仕組み

当社では環境経営に向けて、ISO14001による環境マネジメントシステム（EMS）を構築しています。マネジメントサイクルは、中長期計画をもとに年度環境目標を定め、各サイトのマネジメントプログラムで実施。各サイトでは、

年1回の環境監査（内部環境監査）でチェックし、最高経営層のマネジメントレビューにより次年度の環境目標に反映させ、継続的改善を図っています。ISO14001認証取得状況は、2000年9月に滋賀（水口）工場、2001年12月に本社・東

日本支社。2003年1月に滋賀（水口）工場、本社・東日本支社サイトを統合し、拡大審査により中部支社・西日本支社の認証を取得。2006年9月には岡山工場でも認証を取得し、全支社が一体となった体制を整えています。

## ISO14001 認証取得状況

取得年月	対象	登録活動範囲
2000年 9月	滋賀(水口)工場がISO14001の認証を取得	○業務用冷凍冷蔵ショーケースの製造
2001年12月	本社・東日本支社がISO14001の認証を取得	○業務用冷凍冷蔵庫・冷凍冷蔵ショーケース・各種冷凍機応用機器の販売、据付およびメンテナンス
2003年 1月	滋賀(水口)工場および本社・東日本支社サイトの統合	○業務用冷凍冷蔵ショーケースの製造 ○業務用冷凍冷蔵庫・冷凍冷蔵ショーケース・各種冷凍機応用機器の販売、据付およびメンテナンス
	中部支社・西日本支社ISO14001の認証を取得	○業務用冷凍冷蔵庫・冷凍冷蔵ショーケース・各種冷凍機応用機器の販売、据付およびメンテナンス
2006年 9月	岡山工場がISO14001の認証を取得	○業務用冷凍冷蔵庫の製造

## EMS推進体制

EMS推進委員会を中心に、環境目標の策定、実績の把握を行い、さまざまな活動を推進しています。



### 環境監査

EMSが有効に機能しているかを確認するため、内部監査を年1回、外部認証機関による外部審査を年1回実施しています。内部監査員は、内部監査員養成セミナーを受講し、能力が認められた登録者の中から選任。現在の登録者は110名となっています。2015年度の内部監査で指摘された事項に対しては、迅速な対応を実施しました。また2015年7月には外部審査（更新審査）を行いました。不適合はありませんでした。

### 推進委員会

各サイトには、EMS管理責任者の下にEMS推進委員会が設けられており、定期的な会合・目標の策定・進捗と見直しなど、さまざまな情報交換が行われています。人数は2015年度実績で、本社サイトで41人、滋賀（水口）工場サイトで19人、岡山工場サイトで21人で運営していました。2016年度も本社サイトは41人、滋賀（水口）工場サイトは19人、岡山工場サイトは22人で運営していきます。

### 環境教育

年間教育計画をもとに年1回、全従業員（一般社員・パート・派遣社員・請負業者）に向けた環境教育を実施しています。当社にとって最も関りの深い環境活動であるフロン回収作業については、独自の認定基準を設け、認定登録者による回収作業を徹底。フロン回収技術者には、毎年緊急時の対応訓練を実施するなど、能力の強化を図っています。

本社・東日本支社・中部支社・西日本支社

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2015年度実績	評価
製品・サービスを通じた環境貢献	ECO-techを軸として、環境・安全・安心の製品・システム・サービスを提供し、エンドユーザーの環境負荷低減に寄与する	①省エネ型製品(インバーター冷蔵庫、Axia-Eco、Send-you、Axia-Ecoマスター、IMインバーター)の拡販	省エネ型冷蔵庫の販売台数 38,269台	😊
		②長持ちビジネスの推進・提案	機能回復を図り、トータルでの資源有効活用に寄与	
		③省エネによるESCO提案、省エネシステムの開発・提供(ESCOビジネスの推進・提案)	ESCOビジネスの推進・提案により電力使用量削減に寄与	
		④安全・安心契約、システムの開発・提供	Sネット24(店舗設備24時間監視システム)による省エネ効果 プレメンテナンスによる故障率の軽減、食材ロス削減、製品の 高寿命化に寄与	
		⑤プラスト・RO・FEクリーン水の拡販	プラストチラー：電力使用削減、衛生管理向上に寄与 RO水：安全で安心な水を提供、廃棄物削減(資源節約)に寄与 FEクリーン水：衛生管理向上に寄与	
		⑥上記項目の販促ツールの作成・情報提供	環境配慮型製品(インバーター冷蔵庫・Axia-Eco等)の 販促ツール作成：プログラム達成率100%	
オゾン層の保護	サービス時・機器廃棄時の冷媒(フロンガス)回収の徹底(委託業者含む)	冷媒回収量・破壊量の記録の徹底	オゾン層破壊物質の大気排出防止	😐
	冷媒のガス漏れ件数の把握	ガス補充件数・充填量の把握	オゾン層破壊物質の漏えい(排出)防止	
地球温暖化防止(CO <sub>2</sub> の削減)	電気エネルギーの使用量を2010年度実績より18%削減する≒【CO <sub>2</sub> 排出量を18%削減する】	①空調の標準温度設定の徹底	電気使用量実績は昨年度より減少	😊
		②クールビズ・ウォームビズの実施		
		③照明機器・パソコンの無駄な電力の削減		
④3ヶ月に一度のフィルター清掃				
⑤社屋のコンデンサー洗浄				
	社用車の燃費の把握	エコドライブの実施	エコドライブによるガソリン使用量の増加	🙄
	製品戻り入れ台数を前年度比以下に低減させる	製品戻り入れの低減	製品戻り入れ台数、前年度比より減少	😊
環境教育	環境教育や啓発活動により従業員の環境マインドの向上を図る	①各部門の活動内容をエリアスへアップする	対象部門の活動報告を社内HPに掲示	😐
		②毎月一回社内HPへ情報をアップする	ECOニュースを毎月社内HPに掲示	
		③環境教育訓練の実施(一般教育年2回以上、その他は年1回)	社内環境教育 年2回実施	
		④エコ検定合格者数の増加	ECO検定合格者数183名	
環境コミュニケーション	[環境・安全・安心]の情報発信	①環境報告書の発行	F'S ECO REPORT 2015 発行	😊
		②オフィシャルサイトへの環境情報公開		
コンプライアンス	環境関連法規制の遵守徹底(環境法、条例、業界の取り決めの遵守)	①環境関連法規制の情報開示 ②適合性のチェックの徹底(6ヶ月毎にチェックする)	関連法規制適合チェック関係部門目標年2回実施	😊

## 環境保全の目標・実績評価

## 滋賀(水口)工場

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2015年度実績	評価
地球温暖化防止 (CO <sub>2</sub> の削減)	新規開発製品・改良品で開発段階における新旧製品・部品に対して、各部品・性能に関してCO <sub>2</sub> 換算を行い、改良・改善によるCO <sub>2</sub> 排出量削減を目的とする	2014年度同様にLCAの取り組みとして、新規開発・部品図作成段階・性能段階においてCO <sub>2</sub> 換算し、CO <sub>2</sub> 排出量10%削減を目標とします。	モデルチェンジの省エネ化により、使用時のCO <sub>2</sub> 削減量目標達成 MEC 開発：12.2%削減 MRN 開発：18.0%削減 OMC 開発：50.0%削減 ※OMCは冷媒変更に伴いGWP値における環境負荷軽減量を計上	😊
	温室効果ガスの排出量を2017年度末の実績で、2014年度比6%削減する	温室効果ガスの排出量を2015年度末の実績で、2014年度比2.0%削減する。	2014年度比6.3%減	😊
		電力使用量の前年度維持	2014年度比4.8%減	😊
		都市ガス使用量の前年度維持	2014年度比46.6%減	😊
		特別管理産業廃棄物の排出量の前年度維持	2014年度比26.7%増	😞
資源の有効活用	素材消耗材の使用量を削減する	工場全体の時間当たりの付加価値を2015年度末の実績で2014年度比105%にする。	2014年度比111%	😊
		コピー用紙の使用量を2015年度末の実績で、2014年度比2%削減する。	2014年度比2.4%増	😞
産業廃棄物の削減と適正処理	産業廃棄物の排出量を2014年度末の実績を維持する	産業廃棄物の排出量前年度維持	2014年度比26.7%増	😞

## 岡山工場

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2015年度実績	評価
製品の省電力化(開発設計)	現行製品より省エネ製品の開発	薬用スライドショーケース省エネ製品化推進	2016年2月～量産開始	😊
フロンが与える環境影響低減	冷媒回収の徹底	チェックシートによる回収記録の実施	実施率100%	😊
	フロン排出量抑制	フロン排出抑制法の遵守 フロン使用機器の管理・定期点検	実施率100%	😊
エネルギー使用量削減 (CO <sub>2</sub> 排出量の削減)	生産性向上により、製品1台当たりの電力使用量を2014年度比で2015年度に5%削減する	生産性の向上 電力使用量の見える化	2014年度比7%減	😊
	LPG消費効率(LPG使用量/塗装個数)を2014年度比で2015年に20%削減する	塗装設備の定期メンテナンス 溶剤塗装不良低減	2014年度比5%減	😞
廃棄物の削減と適正処理	産業廃棄物の排出量を2012年度比で2015年度に15%削減する	梱包材、梱包方法の見直し	2012年度比11%増	😞
素材・消耗材の使用量削減	製品一台当たりのスクラップ廃棄量を2014年度比で2015年度に5%削減する	板金廃棄の低減 試作部品廃棄の低減	2014年度比7%増	😞
環境教育	環境教育、啓発活動により、エネルギー資源・生産資源節減への意識を向上させる	教育計画の実施	計画に対して100%実施	😊
コンプライアンス	環境関連法・条例・業界取り決めの遵守	有機溶剤作業主任者の養成 マニフェスト・SDS管理を徹底	100%実施	😊

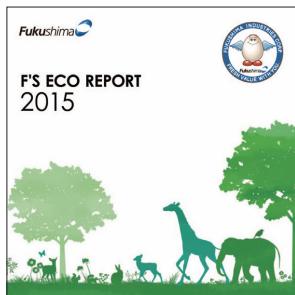
# 環境コミュニケーション

## WEBサイトや冊子で環境情報の発信に取り組んでいます

福島工業では、企業理念に基づいた環境方針やさまざまな環境保全活動への取り組みを社内外に向けて発信するため、ホームページや環境報告書の作成などを通じて、積極的な環境コミュニケーション活動を行っています。



ホームページ



F'S ECO REPORT

## CO<sub>2</sub>削減に貢献するエコキャップ運動に取り組んでいます

福島工業では、地球温暖化防止と社会貢献を兼ねたエコキャップ運動を行っています。社内の各支店・営業所にペットボトルのキャップ回収ボックスを設置して分別されたキャップをNPO法人エコキャップ推進協会へ送付しています。リサイクル工場に売却し再生プラスチック原料として換金し、医療支援・ワクチン支援や障がい者支援、子どもたちの環境教育等、様々な社会貢献活動にあてられています。福島工業では、これまでに累計307,870個、約717kgのキャップを回収し、約2,258kgのCO<sub>2</sub>削減を行っています。



### 【表紙デザインについて】

地球温暖化防止対策のひとつ改正フロン法（フロン排出抑制法）への取り組みなど、自然と社会がより良い環境の中で共存していく、福島工業の社会貢献への活動姿勢を表現しています。

### 【編集方針】

本報告書は、環境保全活動をわかりやすく情報開示し、事業活動に関わる株主様やお客様をはじめ、広く社会とのコミュニケーションを図ることを目的として作成しています。

2016年度報告書は当社の環境マネジメントの考え方や、取り組み内容・その結果の環境パフォーマンスなどを、2015年度の環境保全活動実績をもとに作成したものです。当社の環境に対する取り組みの中から、重点的に取り組んでいるものを中心に編集しました。

●本環境報告書は、当社の環境マネジメントシステム（EMS）の範囲を基本としていますが、データ集計範囲が異なる場合は、その都度表記します。

環境報告書「F'S ECO REPORT」に関するお問い合わせ先

## 福島工業株式会社

本社  
〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島 3-16-11  
TEL 06-6477-2011 (代) FAX 06-6477-0755

<http://www.fukushima.co.jp/>

